

各教科等における 「令和7年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



目指す子供の姿

- 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめている。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。
- 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①児童が学習問題を把握し、その解決へ向けての見通しを持てる学習活動の充実

- ◇単元を通した学習過程を構成し、動機付けや方向付けを重視する。
- ◇学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童の表現を促す。

②児童が学習問題を追究する中で自分の考えを広げ、深める学習活動の充実

- ◇社会科の特質に根ざした追究の視点を生かした問いを設定する。
- ◇「社会的な見方・考え方」を働かせた多角的な考察場面や社会に見られる問題の解決に向けた選択・判断場面を位置付ける。

③児童が情報を読み取り、取捨選択し、解釈・活用する学習活動の充実

- ◇「徳島版読解力」を育成する場面を単元を通した学習過程に位置付ける。
- ◇「徳島 I C T活用モデル」を参考に 1 人 1 台端末等を効果的に活用する。